



# 日本イーストウエストセンター同友会

## The Japan EWC Association

ニューズレター 第13号

### 1994年度 JEWCA 総会開かる —EWC 総長との電話会議も—

1994年度日本イースト・ウエスト・センター同友会総会が9月3日、名古屋市千種区の愛知会館で、約30名の出席をもって開催されました。南山大学の宮川佳三先生はじめ、中部支部の方々の御尽力で開催することができました。

1992年の9月に関西支部の方々の御尽力により、京都の新・都ホテルで当時の三和義彦会長のもと総会が開かれましたが、それにつづいて東京以外で総会が開かれるのは二回目で、京都、東京、名古屋と総会の開催地が一巡したことになりました。

同友会会員に加えて、イースト・ウエスト・センターのアルムナイ・オフィスで公的プログラムを担当して居られるウェブスター・ノーラン氏も総会に出席されました。

中部支部の発案で、今回は新しい試みがなされました。総会が始まる前に、イースト・ウエスト・センター総長のオクセンバーグ博士のあいさつ及びスピーチを録画したビデオ・テープがまず会場に流されました。そのあと、国際電話でオクセンバーグ総長が同友会会員からのいくつかの質問に答える電話会議がありました。オクセンバーグ氏の声はスピーカーを通して会場で聞くことができました。さらにこのあと、名古屋アメリカン・センター館長のマイケル・グリーンヴァルド氏による「日米関係における新しいパラダイム」という題の講演がありました。

オクセンバーグ総長はビデオ・スピーチの中で現在の日米関係は今までのどの時期よりも重要であること、日米両国を合わせると世界全体の経済活動の41パーセントを占めており、両国の関係がまずくなると、どちらも繁栄を享受できなくなることを強調されました。日米が共に協力または挑戦すべき分野として、貿易、エネルギー、環境、航空旅行、電気通信、AIDS、非核拡散等をあげられました。

イースト・ウエスト・センター自体については、この五年間で連邦政府からの資金が20パーセントから30パーセントほど減少したこと、このためセンターが活動縮小（ダウンサイジング）の必要にせまられていること、また、資金源を多様化する一方で、センターの研究活動の核は保持し目的を達成するようにしなければならない、ということ述べられました。日本政府とセンターの関係については、日本政府からセンターへの財政援助の額が増やされ、決して多額ではないがよいステップであるということでした。

センターの新しい研究分野として、公衆衛生、老齢化、総合安全保障等があげられました。アジア財団やブルッキングス研究所等との協力が進められていること、センターでの研究の質を高めるため、研究結果を外部に発表して、評価を受けるようにしていることが報告されました。

また、イースト・ウエスト・センターの役割

としてアジア・太平洋諸国の人々の相互理解を増すこと、これらの地域における長期的かつ安定的発展、たとえば人的資源の開発、に貢献すべきことがのべられました。アジア・太平洋協力会議 (APEC—Asia Pacific Economic Cooperation forum) にみられるような地域開発協力にイースト・ウエスト・センターは役割を果たすことができる、ということでした。センター同窓生もアイデアを出し合い貢献することができる、ということが強調されました。

ひきつづきおこなわれた電話会議では、会員からオクセンバーグ総長に、北朝鮮問題、米中関係、日本の国連安全保障理事会常任理事国入りへの動き、センターでの学生プログラム、センターと APEC との関係等に関して質問が出されました。

北朝鮮問題に関しては、北朝鮮にクリントン政権が、核兵器開発はアジアに不安定をもたらすということとをさとらせたことは評価できる、また、米中関係に関しては、クリントン政権が、中国への最恵国待遇を人権問題と切りはなして処理したことは正しい選択だった、ということがのべられました。現在核保有国によって占められている国連安保理・常任理事国グループに非核・非軍事大国の日本が加わりいろいろの間

題にとりくむことは大事なことであるという意見をのべられました。

学生プログラムについては、予算制約下で研究と学生プログラムのバランスをどうするか、むずかしい決定をしなければならないということでした。

APEC とイースト・ウエスト・センターの関係については、15のアメリカの大学が APEC のために、エネルギー問題、環境問題、人的資源問題等の研究を行うことになっておりイースト・ウエスト・センターとハワイ大学がこれら APEC スタディ・センターのひとつになっているということでした。

名古屋アメリカンセンター館長のグリーンヴァールド氏は、最近の日本の政治状況の変化、規制緩和への動き、雇用関係の変化、価格破壊、工場の海外移転などに注目し、日本がより競争的経済に移行しているとのべられ、これの延長線上で日米関係が円熟した関係になることを希望されました。

重ねて、この総会の開催のために多くの時間とエネルギーをさいて協力してくださった宮川先生はじめ中部支部の方々に心から感謝申し上げます。(文責・川畑 泰)



オクセンバーグ総長と電話会議をする右からグリーンヴァールド名古屋アメリカンセンター館長、川畑日本 EWC 同友会会長、宮川名古屋支部会長

## 1994年度総会開催報告

1994年度の日本イーストウエストセンター同友会総会は、去る9月3日午後3時より名古屋市・愛知会館にて開催されました。名古屋で総会が開かれるのは初めてということもあって、会場にはなつかしい顔ぶれが集まり、出席者は中部支部会員を中心に27名を数えました。

総会に先立ち、会場とハワイのオクセンバーグ EWC 総長のご自宅を結んだ電話会議が行われ、同友会や EWC に関する様々な問題が話し合われました。オクセンバーグ総長は度々来日されておりますが、大勢の同友会会員と直接話される機会はこれまでなく、極めて意義深い催しであったといえます。この会議を企画・運営された中部支部ならびに名古屋アメリカンセンターの関係各位の御尽力によるものです。

引き続き、名古屋アメリカンセンター館長のマイケル・グリーンワルド氏による講演が「日米関係における新しいパラダイム」と題して行なわれました。政治・経済など幅広い視点からの考察に対して、出席者からも活発な意見が述べられました。

総会においては、次の報告がありました。

1994年度活動報告	川畑 泰会長
EWCA 活動報告	馬場房子副会長
ニューズレター・名簿	中村正枝副会長
事務局報告	浜野 潔 (事務局)

今回の総会は会計年度の途中において開かれたため、会計報告は年度末の幹事会において行うことが提案され直ちに承認されました。続いて、各支部・同窓会の代表者から、活動の報告・紹介が行われました。

関西支部報告	松井進平
中部支部報告	宮川佳三
沖縄同窓会報告	照屋文雄

総会終了後は会場を別室に移して、懇親会が開かれました。総会が東京以外の場所で開かれたのは一昨年の京都総会に続いて2度目ですが、会場からは次回は沖縄でも開きたいとの声も聞かれるなど終始なごやかな雰囲気の中8時過ぎに散会しました。(文責 浜野 潔)

## EWCA Fund Drive に ご協力をお願い

EWCA 本部から寄付募集運動にご協力をお願いしたいという書簡が届いています。EWCA では EWC からの援助がカットされてきている現状から、その活動を維持する上で同友会会員の支援に頼っています。依頼状のコピーと申し込み用紙がこのニューズレターに同封されておりますのでご一読の上ご協力をお願いいたします。

## EWCA International Conference に出席して

日本 EWCA 同友会副会長  
EWCA 理事  
馬 場 房 子

1994年7月4日から8日まで「EWCA International Conference」に出席しました。EWCA International Conference は、3年に1回開催されてきており、1988年には、インドネシアで、1991年にはタイで開催され、今回は、アメリカで開催されました。今回の特徴の一つは、Los Angeles から Mexico の Ensenada に行き帰ってくるという船上で行われたということです。

アメリカの Southern California Chapter の方々により計画され、実施されました今回の Conference は、7月4日のオープニング・セッションから7月8日の Aloha Friday までの楽しく、しかも有益なものだったと思います。

4つの分野 ((1) Trade/Law/Business (2) Health (3) Education (4) Environment) で、Concurrent Sessions が Part I からIVまで行われました。Presentation はそれぞれ1時間行われ、その後、全体会議で各 Session の Note Taker が要約して発表するという方式で行われましたので、各人は自分の出席できなかった他の3つの Session で何が話されたかということが分かりました。私自身も、Business の分野で

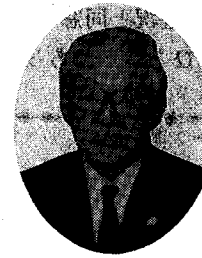
Presentation をする機会を得ました。テーマは「The Influence of Employment Situation on Working Women in Present Japan」でした。今、Southern California Chapter の方々によって Proceedings が作成されているということで、いずれ皆さんのお目に留まればと思っています。

さて、次回の国際会議は、未だ正式には決定されていませんが、インドが有力です。1997年には、できるかぎり多くの日本 EWCA の方々が参加されることを期待しております。ちなみに、今回、日本からの参加者は8人でした。

ところで、この Conference の前の7月3日の午後と7月4日の午前中に、EWCA の理事会が、ロングビーチのヒルトンホテルで開かれました。EWCA は、今まで EWC から多大の支援を頂いておりましたが、EWC 自体の方も、財政的に厳しい状況とすることですので、今後は EWCA の皆様のご協力を頂きたいと思っております。そして1997年の EWCA International Conference を成功に導きたいと願っている次第です。

## 超自己実現人としての山下さんの思い出

馬 場 房 子



山下さんが亡くなられたと知った時には、本当にかかりました。心の中にぽっかりと穴があったような気持ちというのは、こういうことを言うのだと思いました。お

そらく、この様な気持ちになられた方々は、多数いらっしゃると思います。お通夜には日本 EWCA を代表して、川畑さんと三和さんと3人で行かせていただきました。お通夜にいられた方々の多様さは、山下さんのこれまでの生き方をそのまま写していると思いました。もちろん、財界、政界などの代表的な方々のお顔も見えましたが、私にとりまして印象深かったのは一目で技術者あるいは技能者とわかる現場の方々やおそらく趣味のお友達と思える年輩の上品な女性の方々などでした。山下さんは、日本経済新聞社の「私の履歴書」や日本能率協会マネジメントセンターの「人材教育」の編集長インタビュー(1992年6月号)などに、現場の方々から、お茶、お花、日本画、俳句などを教えてもらったということです。最近、旧ソ連に山下さんと一緒に行かれたという方にお目にかかりましたが、山下さんは、現場の方々と最後まで親しくつき合われたのだそうです。私にも、ご自分のことを「技術や」としてしばしば話

されてきました。

ところで、山下さんに日本 EWCA の顧問になって下さいとお願いにあがったのは、1988年のことで、三和さんが三井造船の本社まで一緒に連れて行って下さいました。山下さんは快くお引き受け下さり、総会の時には手紙で短いスピーチをお願いしますと、いつも出席して下さい心に残ることを話して下さいました。そのスピーチから、山下さんのお考え、お人柄を直接知ることが出来ました。又、インドネシア、タイで行われました EWCA International Conference にはご一緒に出席し、ハワイの EWC の会議の時も、ハワイでお目にかかる機会を得ました。

最後に、私事で恐縮ですが、山下さんとの出会いから「B理論」という人間の理想のモチベーション理論を思いつき、1990年に提唱することができました。30年近く、経営心理学者として、「人はなぜ行動するのか」という人間のモチベーション (Human Motivation) に関心を持っていますが、山下さんという方にお目にかかることが出来、超自己実現要求によって主として動機づけられている人間が存在しているということを知ったことが、この新しい理論の提唱のきっかけになったのです。

山下さん、本当にありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。



Royal Caribbean Cruise 船上での集合

## 関西支部から

関西支部長  
松 井 進 平

関西支部の役員は本年度次のように (一部) 交代した。

支部長 : 松井進平 ('64同志社大学)  
副支部長 : 岡田 妙 ('62同志社大学)  
事務担当役員 : 芦田友秀 ('67ホテルギンモンド)

中山行弘 ('79摂南大学)  
谷井信一 ('82関西学院大学)

新役員最初の仕事として、9月17日夕刻、京都四条通り南座前のレストラン菊水で支部総会が開かれ、出席した13名の会員は酷暑から開

放された京の夕べをなごやかに語り過ごした。  
新支部長の挨拶で始まり、同志社・AKP 留学センターの所長として京都に滞在中の Vivian Herman さん（'86日本の政治の研究者）による興味深い講演 “Learning about Japan Becom-

ing International: Thoughts on Japanese Studies and the World Citizen” を聞いた。質疑応答の後、食事を取りながら東西文化センターの今昔を語り合い、互いの近況と同窓の友の消息を伝え合った。有意義なひとときであった。

## 中部支部から

中部支部部会長  
宮川佳三

本年度の中部支部総会は、日本 EWC 同友会総会開催に合わせて、9月3日(土)に愛知会館で開催いたしました。約55名の会員に郵便にて案内しました。その結果、15名の出席者があり、過去において開かれた総会出席者を上回る会員の出席を得ました。

総会では、過去の中部同友会の活動報告、今後の活動等について話し合っていました。会の運営につきましては今までの人事により継続的に行い、活動については、EWC 関係者の来名の折に、また、EWC 関係のプログラムが名古屋を中心とした地区で行われるものに対して協

力的に行う。そのための人的つながりを密にしておくことが同友会の存在にとって不可欠との認識の一致をみました。会費納入に関しての話し合いで、日本同友会の会費納入時期に合わせることにいたしました(日本同友会¥3,000; 中部同友会¥2,000)。前後に、中部同友会を第33番目の EWC の公式の会として本部に申請することになりました。この件については、現在手続き中であります。

以上報告いたします。皆様の協力をお願いします。

## 沖縄同窓会から

EWCA 沖縄同窓会幹事  
照屋文雄

9月3日、名古屋市の愛知会館で開かれた日本イーストウエストセンター同友会の総会に出席し、久方ぶりに旧知の方々とお会いすることができ、ハワイ時代にタイムスリップしたような楽しい一時を過ごすことができました。総会ではイーストウエストセンターの President Dr. Oksenberg との電話会議などがあり今後のセンターの政策や方針を知る上で、大変有意義な企画だったと思います。川畑会長をはじめ総会を計画、実施された同友会本部および名古屋支部の幹事の皆さんご苦労さまでした。今度機会が

ありましたら、沖縄での総会も企画して下さい。同友会の皆様のご健勝とご活躍を祈っています。さて、EWCA 沖縄同窓会では、今年度の定例総会で役員改選を行い、会長、副会長(2)、事務局担当(1)を新たに選出しました。これは、昨年11月の EWC 地域会議開催で一応の区切りがついたことと、人事を一新して会の活性化を図ろうということで実施したものです。新しい役員の顔ぶれは下記の通り：

会長 宮城 宏光 ISI 63~65 沖縄振興開発金融公庫副理事長

副会長 大城 清一 AYI 65~66 (元宜野湾高等学校長)  
副会長 古波蔵 里子 ITI 65~65 おきでんふれあいふらざ所長 (沖縄電力)  
事務局 西平 章子 ISI 66~67 琉球大学、沖縄キリスト教短期大学非常勤講師

なお、EWCA 沖縄同窓会事務局の宛先は、

沖縄県西原町上原207番地  
琉球大学医学部保健学科崎原教室内

昨年11月の EWCA 地域会議の Proceedings は現在最終校正を行っていますが、年内には何とか印刷にこぎつけたいと頑張っています。B5判で350ページの予定です。

その他の活動：会員名簿の改訂作業に入ります。

## '67年度組 REUNION

そもそもの発端は1993年の10月のある日、私の職場に一人のアメリカ人から電話が入ったことです。20数年ぶりに聞く懐かしい声の主、EWC 時代の私のルームメートのサムエル・シェパード氏は2時間後に待ち合わせ場所に現れ、それから半年後には、今度はフルブライト日米教育委員会の事務局長として、再び私の前に姿を現しました。

ところで、クリーブランド号で太平洋を渡った67年組は、その後一度も同期生会を開くことがありませんでした。私自身、海外で教えることが続いたせいで、サムとの音信もいつの間にか途絶え、また、日本 EWC 同友会からも忘れられた存在でしたが、彼の登場が状況を一変させました。

かくて、1994年10月15日、サムの同委員会事務局長就任祝いを名目に、全国から馳せ参じた67年組を中心にして、さらにサムと縁の深い馬場さんや神保さんにも加わって頂いて、それこそ26年目の同期生会を東京都内でもつことができたわけです。

予想をはるかに上回る参加者に、皆の「青春の EWC」への思いの強さを改めて感じた次第ですが、一回限りの集まりでは到底積もる話も吐き出し切れず、次回は自分の所で開いてくれという要望が出ています。というわけで、サムちゃん、とりあえず沖縄と佐渡を次の出張先の予定に入れといて。(松岡 弘<LIP67年度、現一橋大学>記す)



## EWC から

### 投稿歓迎のお知らせ

The East-West Center encourages its Associates to submit ideas for articles they might wish to write for EWC publications, particularly the *Asia Pacific Issues Paper* series. A one-page summary of the proposed paper should be sent to Elisa Johnston, Manager, EWC Publications, Office of Public Programs, East-West Center, 1777 East-West Road, Honolulu, HI 96848, telephone (808) 744-7202 ; fax (808) 944-7376. The proposal will be reviewed by the EWC Editorial Advisory Board and if accepted, Ms. Johnston or a member of her staff will contact the author. *Issues Papers* undergo a peer review process. They Usually run about 4,000 words but some flexibility is permitted. The *Issues Papers* currently are sent to 4,000-6,000 recipients, including members of the U.S. Congress and their staff, other key policy-makers in the United States, Asia and the Pacific, corporate executives, leaders of trade and industrial associations, journalists, scholars and others. The Center welcomes suggestions for additional recipients. Proposals are invited on a wide range of issues. Recent papers have dealt with development in Central Asia, deforestation in Southeast Asia, the AIDS epidemic in Asia, women's rights, pollution measurements and U.S.-Japan trade relations. The Center publishes about one *Issues Paper* per month. To get on the mailing list please contact Ms. Johnston.

ふるって御意見をお寄せ下さい。

---

### 編集後記

---

つい先頃まで記録破りの猛暑・酷暑に苦しんでいたような気がしますのに、いつの間にやらもう新年がそこまで来ています。私達が齢を重ねて来たと同様、ハワイのEWCも年を経てその姿を変えてきています。その理念も現実も昔とは違ってきていることをふまえて私達同友会のあり方も、もう一度考え直してみる方が良いように思えます。EWCのおかげで得られた友人との絆だけは大切にしながら……皆様もニューズレターに一筆お寄せ下さいませんか？(MN)

---

### ニューズレター 第13号

---

編集発行 日本イーストウエストセンター同友会

編集者 中村正枝

発行者 川畑 泰

〒180 東京都武蔵野市境5-24-10

亜細亜大学馬場研究室内

電話 0422-54-3111 内線 2271

---

タナカ印刷